

環境ぱれっと

平成25年3月

第21号



パレットの上では、一つ一つの色が混ざり合って、新しい色が生まれます。環境道民会議も、様々なカラーを持つ団体が連携し、環境保全活動を広げていくという思いを込め、この活動情報誌を「環境ぱれっと」と名付けました。

『環境道民会議ウインターミーティング』を開催しました



冬の省エネ取組についてのワークショップ

平成24年12月19日(水)に、かでの2・7において「見つける 身につく 楽しい省エネ」をテーマに『環境道民会議ウインターミーティング』を開催しました。

基調講演の講師に、映画『南極料理人』原作者の西村 淳 氏をお迎えして、『究極のエコ料理・エコライフ』と題して講演していただいたほか、北海道電力(株)の磯田 和志 氏と北海道環境カウンセラー協会の岡崎 朱実 氏から「冬の省エネ・節電のポイント」等について事例発表をしていただきました。

その後、ワークショップを開催し、参加者の皆さままで冬の省エネの取組について意見交換を行いました。

基調講演

『究極のエコ料理・エコライフ～冬の省エネを楽しむヒント～』

映画『南極料理人』原作者、料理人、タレント、著作家 **西村 淳** 氏

私は南極観測隊に2度参加し、2度目は南極で最も寒いと言われているドームふじ基地というところで越冬しました。ドームふじ基地は南極大陸の内陸約1,000キロメートルにあり、標高3,800メートル、平均気温はマイナス57度、周囲約1,000キロメートルには生きものどころかウイルスさえもいません。生きているのは、9人のおじさんたちだけという場所で、約1年2カ月間の越冬生活をしてきました。そのような場所で、毎日真剣な顔で暮らしていると精神的に追い詰められてしまうので、みんなでいろいろなことに楽しみをみつけて暮らしていました。

それでもある日、1度だけ死んでしまうのではないかと思うような事件が起きました。あまりの寒さですべての車両が凍りついて動かなくなってしまい、基地から150メートル離れた燃料庫から燃料の入ったドラム缶を運ぶことができなくなってしまったのです。みんなで緊急ミーティングを行い、毛布を被って我慢するという意見もありましたが、最終的にはみんなでドラム缶を転がして運ぶことになりました。外の気温はマイナス75度、風速は15メートル、体感気温がマイナス90度の中でドラム缶を運ぶのはほとんど不可能と思われたのですが、トライアスロンをやっていたドクターがたった一人で挑戦して、ドラム缶を転がして持って帰ってくることができたということで、残りのドラム缶はみんなで協力して一生懸命運びました。こうして、結局こういったトラブルも全て楽しいことに変えてしまいました。

また、ジャガイモの在庫が無いのにも関わらずポテトのクリームスープが飲みたいという注文があった時には、芋なんてどこにあるのか、どこに畑があるのかと聞いたのですが、たまたまポテトチップスがあったので、これを牛乳の中にそのまま入れたところ、ポテトチップスは先祖返りをして芋に戻り立派なポテトのクリームスープになりました。

他にも、1リットルの冷凍した牛乳を沸かして大きじ1杯の酢を入れ、分離したものをザルで漉してカッテージチーズを作ったり、分離して下の方に溜まったホエーを味噌に溶いて出汁として利用したりしました。



映画『南極料理人』原作者 西村 淳 氏の基調講演

ドームふじ基地では、雪を溶かして水を作っていました。毎日、必ず1時半になると、1,000リットルしか入らない小さい水槽に雪を入れ、これを水槽から20メートル離れたところにある発電室のボイラーで溶かして基地内を循環させ、飲み水や風呂水のほか暖房にも使っていました。

この地球上にある一番貴重な資源は水、それも真水です。水の98%は海水なので、真水は残りの2%しかありません。しかも、そのうちの9割は南極で凍りついているので、もし地球上の全ての水が家庭用の風呂桶の中に入っているとしたら、全世界の何十億もの人が使っている水は、その中のたった1滴に過ぎず、人間はこの1滴を分け合って暮らしているのです。いかに水が貴重なものであるかということ、南極に行つて本当に実感しました。

自分たちは、南極での1年2カ月間を本当に楽しんで生活しましたが、あのときの経験を通して学んだのは、「頑張らない」ということです。今日できることは明日しようぐらいのなまけ者の精神といえますか、あまり頑張りすぎず、とにかく一番弱い人に合わせていこうという感じでやってきました。

今、省エネという言葉をいろいろな場面で耳にしますが、自分の本職は料理なので、食べ物にしても何にしても、命をくれているものを大事に大切に使うかなければならないと常に思っています。これはエネルギーに対しても同じで、すべてのものには限りがあり、そういったものを地球からもらっているということを念頭に置いて、「もったいない」という言葉をいつも意識していなければならないのかなと思っています。

事例発表 1

『冬の省エネ・節電のポイント』

北海道電力株式会社お客さま本部 営業部営業企画グループ担当部長 磯田 和志 氏

はじめに、この夏の節電にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。また、この冬も、12月10日から7%以上の節電のお願いをしておりますことに、引き続きご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、冬の北海道の省エネ・節電といえば、まずは暖房をイメージされる方も多いのではないかと思います。資源エネルギー庁の推計では、冬のご家庭での電力使用割合は、照明、冷蔵庫、テレビで全体の概ね4割を占めており、実際のところ、暖房機器の割合は6%くらいしかないとのこと。もともと、暖房機器としては主に石油やガスのストーブなどが既にありますので、こと節電に関していうと、私どもとしては照明、冷蔵庫、テレビといった一般的に使われている機器の電気を削減してもらうことが一番有効なのではないかと考えております。

そこで、不要な照明の消灯や冷蔵庫の庫内温度設定を控えめにするなど、お願いしたい節電方法を記載したチェックシートを作成して、7%以上の節電を呼びかけているところですが、今回、このチェックシートを活用することで本当に7%以上の節電ができるのかということを確認するため、11月に北電の社員78名の家庭で実際に取り組んでみることにしました。

まず、節電というのは、無理をすると長く続けることができませんので、無理をしない範囲でその家庭、家庭に合った取組をお願いして、1週間ごとに節電をしなかった場合と節電をした場合で、どれくらい電力の使用量に差が出るのかといったことを、電力メーターの値でチェックをしました。

その結果、参加した全家庭の節電率の平均は7.6%となり、概ね7割の家庭で7%以上の節電ができました。そして、その中の3割はなんと15%以上の節電ができておりました。

ただ、節電取組期間としていた11月17日から一週間はちょうど初雪が降り、外出を控えて家



にいる人が多かったことなどもあって、7%以上の節電ができていない家庭も3割ほどありました。

それでも、概ね7割ぐらゐの家庭で照明、冷蔵庫、テレビなどを節電することで、7%以上の節電をすることができましたので、おそらくこのような取組を行うことによって無理なく7%以上の節電ができるのではないかと考えております。

また、15%以上の節電ができた家庭では、節電のためにどのような取組を行ったのか、15%以上できた家庭と15%未満の家庭とでは何が違うのだろうかということ調べたところ、答えは電気ポットでお湯を沸かした後などに節電を意識してコンセントを抜くといったような、待機電力を減らす取組をしていたかどうかということでした。こういった、もう一段階上の取組をこまめに行っていただくことができれば、さらなる節電に繋げることができるだろうということも分かりました。

ただ、私どもは、いろいろな節電の取組をお願いしておりますが、あくまでも生活に支障のない範囲ということで節電に取り組んでいただきたいと考えております。節電をしたがために風邪を引いた、病気になったというのでは困りますので、無理をしない範囲で取り組んでいただき、夏に引き続き冬も節電にご協力いただきたいと思います。

事例発表2

『“少”エネライフのススメ』

北海道環境カウンセラー協会 理事 北海道地球温暖化防止活動推進員 岡崎 朱実 氏

本日のタイトルは「“少”エネライフのススメ」となっておりますが、一般的に使われている「省エネ」の「省」ではなく、「少ない」という文字を使っているのは、少ないエネルギーでも快適に暮らすことができるということを皆さんにお伝えしたかったからです。

そこで、まずお伝えしたいのが、今までの「省エネ」と今回の「節電」は少し違うということです。何がどう違うのかというと、省エネはいつ取り組んでもOK、週末に省エネしてもいいし、夜に省エネしてもいい。1カ月間省エネを頑張っただけ減らすことができました、というのが今までの省エネだったわけです。

一方、今回の節電はいつ取り組んでもOKというわけにはいきません。平日の朝8時から夜9時までの間とか、特に家庭では夕方たくさんの電気を使う傾向があるので、夕方の4時ぐらいから夜の9時まで、などと対象や時間を指定しているという点が今までの省エネとは違います。では、なぜ今節電をしなければならないのかというと、今までは電気を使用する量に合わせて発電所が発電したり休んだりして発電量を調整することができたのですが、今は原子力発電所が休んでいるので、発電所が一度に発電できる量が少なく、使う量に合わせて発電量の調整ができないことから、電気を使用している皆さんの方で調整してくださいねというわけです。

そこで皆さんにしていきたい取組が、電力使用のピークを上げないということになります。例えば、炊飯器は最近のものはすごく上等になっているので最大で1,300ワットぐらい電気を使ったりします。ドライヤーも、最近はターボがあつたりして最大で1,200ワットぐらいになります。電子レンジやドライヤーなどは使用時間がそれほど長くないので消費電力量自体は実はそれほど多くはありませんが、一度に消費電力が高いものをたくさん使うとピークが上がってしまうので、時間を分けて使うようにしていただきたいということです。



また、テレビにも、最近は省エネモードなど、省エネ機能がたくさんついていますが、省エネテレビを買ったということで安心してしまつて自分で省エネの設定をしないと、いつまでたつても省エネになっていなかったりするわけです。ですから、取扱説明書をしっかり読んで、そういった機能をしっかり活用してください。

それから、みんなで一緒にの部屋に集まつて他のお部屋の電気を消すというのも、省エネになるのでおすすめです。

最後になりましたが、電気がせつかく一生懸命働いているのに何となく骨折り損になつていたら、ちよつとかわいそうかなということがあるので、電気を上手に活用してみんなが笑顔になるような省エネを進めていけたらいいなと思っています。



「活かす! 省エネライフ!」

北海道グリーンファンドが主催するイベント等で配布しております。

<お問い合わせ>
NPO法人 北海道グリーンファンド
電話:011-280-1870